

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日々の生活に安心と満足が得られるように、奉仕や思いやり心を持ち、互いに支えあい、お一人ひとりが地域に暮らす者としての役割を担った生活ができることを目標としている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と運営方針は事務室に掲示し、全職員が協同し、理念の実現に向けたサービス提供を心掛けている。 お一人ひとりが意欲的、且つ主体性を持った生活ができるように努めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	社是、理念は掲示し、より理解が得られよう機会ある毎に説明を加えている。 世代間交流機会を広く持つなど、地域の人々の理解が得られるよう にコミュニケーションを重視した活動を行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	自治体の一員となり町内会や藤崎町主催の行事など地域活動にも積極的に参加している。 世代間は幅広く幼稚園児や高校生、ボランティアとの交流機会が定期的に得られている。 近隣の子供達が気軽に立ち寄りペットを通じて交流機会も増えている。 恒例となった夏祭りの他、地域の人達も一緒に楽しんでもらえるよう民謡コンサートを開催するなどして理解を求めている。	○ 養成研修を受ける機会がまだ得られていないがキャラバンメイトやサポーターになりたい。 スリーA方式の紹介なども含め、身近なところから認知症普及活動に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価内容はユニット全体で話し合っており、外部評価により気付かされた部分は、改善策を検討してサービスの向上に反映するようにしている。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で運営推進会議を行い、サービス提供の実際を報告すると共に、参加者との意見交換を行いサービス向上に活かすようにしている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困難ケースの相談や緊急ケースの受け入れなど相談し合える協力体制にある。地域包括支援センターにホーム便りを配布したり、いきいきサロンなど催物への参加を通じて生きがい作りに取り組んでいる。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度利用者は現時点ではないが、必要に応じて活用できるように支援している。内部研修で制度の理解する機会が得られている。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職務に就く前に虐待についての十分な説明を行われており文書で同意を得ている。事業所内では虐待となるケース（汚れた衣服の着替えを速やかに行わないなど）を周知し互いに注意を払っている。	○ 疎遠な状態にあるケースでは、心理、経済面でも虐待にあたることの理解を得て虐待防止に努めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけて丁寧な説明を行っている。また、疑問や不安はいつでも気軽に相談して頂けるような対応に努めている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見を反映できるように、コミュニケーションに努めている。また、家族を通じて聞けるように面会の際には気になる点の確認を依頼している。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会や電話の際に口頭で近況を伝える他、不定期にしか来苑できないご家族には月毎にシートを用いて近況や相談、連絡事項を伝えるようにしている。新たな職員は家族が来苑した際に紹介している。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書には、苦情受付の担当者名の他、役場や国保連の連絡先は明記している。面会や電話の際には、不満や疑問がないかを尋ねると同時に、おもいやり箱（投書箱）を設置して意見いる。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々の意見や提案は、月毎の職員会議やユニットカンファレンスで発言する機会を設け、運営者に報告して反映できるようにしている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	緊急の受診や外出などでも人員が確保できるように勤務調整を行い入居者様のニーズに合わせた対応を行っている。柔軟な対応ができるように日勤帯の職員配置は余裕をもたせている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	雰囲気を変えることが、入居者様にとって影響がでるかもしれないということを踏まえ、異動や離職を最小限に抑えている。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務能力に応じた個人別の育成計画を策定しており、職場内外でトレーニング、スキルアップできるように働きかけている。 個々の意向や希望を把握しており、研修等が受け易い体制作りをしている。	○	社内研修や外部研修の発表機会が不定期となっているため、定期的に行って知識や技術の向上を図って行きたい。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新たな意欲が引き出せるように、相互に訪問したり研修などの機会が得られる取り組みをしている。 ケアマネネットワーク会議やGHの意見交換会に参加して知己の同業者と意見交換できる機会を持っている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	施設長は職員の疲労やストレスの要因についても気配りしており、適材適所の人員配置や気軽に相談できる雰囲気を作るなど関係作りに努めている。 新年会など慰労の場を設けている。	○	慶弔や病気での休み以外に、リフレッシュできる機会を作るなど、互いに協力し合って有休などが取り易い体制を作りたい。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得などスキルアップや福利厚生面での充実を図っている。 施設長は能力評価を行い、自身では気付き難い点を改善の目標としてあげ更に向上心を持つるよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族はもとより、効果を説明してご本人様にも見学して頂けるように務めており、不安を受け止めながら入居前にも十分な話し合いの場を設けて信頼関係が深められるように努めている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状の理解に努め、必要時には各関係機関への連絡、調整を行っている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人の見学を含め、強制的な入居にならないようにご本人の納得が得られるように努めている。家族や旧知の人達との関わりが断たれないように、入居当初は面会機会を多く持って頂けるように工夫したり、お一人ひとりに合った外出や外泊も支援している。	
ウ			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	達成感や感謝される喜びが感じられるように、お一人ひとりに役割を持って頂くようにしている。また、頼りにされている、必要とされていると感じていただくために、それぞれの得意分野でスポットが当たるような対応に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力が得られるように、相談を持ちかけ、経過は逐一報告するなど協同や情報の共有に努めている。 ご家族との共有時間が増やせるように、面会や行事参加を呼び掛けている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	プライバシーに配慮しながら、両者の思いや関係把握に努め、それぞれの思いや背景にあるものを探った上で解決策を見出すなど、良好な関係が保たれるように中立的な立場で支援している。 電話や面会を依頼するなど寂寥感が軽減されるように支援している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	医療機関をはじめ、理美容や買物、銀行などは馴染みの場所に行けるように援助している。 行きたい場所や会いたい人などが気軽に聞きだせる関係作りに努めている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	会話や共同作業では、個性を引き出しながらそれぞれの優しさや思いやりが伝わるように、さりげなく介入している。 重度認知症者の言動や繰り返し動作を不快に感じないように努めている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了後であっても気軽に立ち寄って頂き、相談などもできるように努めている。 近況を尋ね転居先を訪問したり、祭りの案内を送るなど縁を大切にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、ご本人の思いや暮らしの意向を確認するように努めている。意思疎通が困難であっても、表情や仕草などから理解、判断できるように努めている。	○ 治療の必要性や廃用予防などを訴え、できる限り本人本位の生活ができるように今後も代弁者となってご家族や関係者の理解を得ていきたい。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にできる限りの情報を収集し、日々の会話の中から経過や詳細、思いを汲めるように努めてアセスメントに反映させている。職員それぞれの気付きから背景を探るなど情報の共有、把握に努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	お一人ひとりのペースに合わせた生活リズムで心地よく暮らして頂けるように努めている。定期的にフローシートを作成するなど現状、経過の把握に努め能力が引き出せるようにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向をもとに、主治医や看護師、薬剤師など医療の意見を合わせて、ケアカンファレンスで話し合って作成している。細かい部分では常に意見やアイデアを出し合い、より現状に適したケアを行うように心掛けている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しと、対応できない大きな変化や問題が生じた際は新たに作成するようにしている。日々のモニタリングを繰り返しながら、定期的に記録し、次の計画作成の根拠として役立てるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子が把握できるように、個別記録の他、業務日誌や申し送りノートを活用して、新たな情報や気づきを共有し、問題点や対応の変更を常に確認できるようにしている。 介護計画の見直しの根拠として活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイの機能は現時点ではない。 医療連携の訪問看護が健康管理面を援助している。	○	ショートステイは申請する予定にあり、認可に必要な要件を揃えるため準備している。 同敷地内にデイサービス、居宅事業所が移転予定であり、リンクさせた総合的で継続した地域への支援を目指している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	世代間交流機会を広く提供できるように教育機関の協力を得たり、ボランティアの活用や災害に供えて地域と協働できる体制作りを行っている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人、ご家族には各ニーズに応えられるように、苑以外にも遠慮なくサービス利用先や相談先を持って頂けるように説明を加えている。 連絡調整や情報交換など意向に沿えるように支援している。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居者様やご家族の意向を取りまとめ、サービスの現状や先の問題を把握して運営推進会議などで協議し、地域包括支援センターとの協働するように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>居室は住み慣れた部屋の雰囲気近づけ、使い慣れた日用品を使用して頂くなど、安心感が得られるように努めている。</p> <p>入居時は重点的な見守りと集中した関わりを持つように努め、スムーズに馴染めるように支援している。</p>	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>羞恥心や性格に配慮した声かけや対応を心がけている。</p> <p>記録は書庫に保管しており、入居者様や外来者の目には届き難い。</p> <p>家庭的の意味を履き違えず、親しくとも馴れ合いにならないように意識している。</p>	○
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>話し易い雰囲気や信頼が深められるように笑顔で明るく接することを心がけ、お一人ひとりの言葉や思いを受け止めている。</p> <p>判断が難しい場合は、適宜ヒントや助言を加えて意志を確認するようにしている。</p>	
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日、その時の気分や体調に配慮しながら、お一人ひとりのペースに合わせて機能が活かされる過ごし方ができるような支援に努めている。</p> <p>個々の希望は都度受け止める姿勢にある。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>好みを取り入れた状況に適した身嗜みが整えられるように支援している。</p> <p>馴染みや希望する理美容店を利用できるように、家族の協力も得て実現している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>おやつ作りの簡単な作業は快く協力しているが、調理の依頼にはしり込みしてしまう入居者様が多い。得意な一品を披露して振舞うなど自身が回復やできるように切欠を提供し、活躍の場が持てるように支援していきたい。</p>
52	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
53	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
54	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
55	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>共同で行う食後の片付けなど家事作業では、手順が違うなど入居者様同士の確執があり、適宜、休息を勧めるなどトラブルを回避し、快くできるよう配慮している。</p>


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解や協力を得て、可能な範囲は本人に所持して頂き安心感を得るようにしている。 また、計画的に使用できるように都度助言している。 盗られ妄想が予測される場合は、金銭や購入品管理の一部を介助している。		ご本人の金銭管理が難しいケースは、その代替方法を家族と相談して取り決め、家族に購入を依頼したり、職員が買物や支払いを代行している。 明細は出納帳に記載すると共に、月毎に領収書をお渡しして内容に相違ないことを確認して頂いている。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お一人ひとりの希望に添える対応を心掛けている。また散歩や買い物等だけでなく、日光浴など日頃から屋外に出られるように支援している。		日常的な外出を好まない方も近隣の観光地へなどは参加を呼びかけ出かけられている。 買物は代行を希望する方もいるが、できる限りご本人が外向き、実物を比較、選択して購入できるように働きかけている。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	温泉や釣りなどの趣味活動、墓参りなどは家族の協力も得て、できる限りの支援を行っている。 短時間で可能な外食等は個別や少人数で対応はしている。 観光地への外出は家族の参加を呼びかけている。		お一人ひとりが外出の意欲や楽しみが持てるようにの情報を提供をしている。 入居者様の親睦が深められるように、回転寿司などの外食も計画中である。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも利用できるように支援している。 電話は受ける相手の環境にも留意して、事前に状況説明の連絡をするなど、良好な関係が保たれるように介入している。	○	遠方のご家族には、身近に感じて頂けるように希望があればビデオ映像を提供することも検討している。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問を歓迎し、気軽に立ち寄って頂けるように日頃より呼びかけている。会いたい人の訪問や外出が実現するようにご家族にも協力を仰いでいる。 行事の参加や誕生日など一緒に過ごせる時間を持って頂けるように、お一人ひとりに合わせた支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	採用時に十分な説明を行い契約書に同意した上で職務に就くようにしている。 拘束はいかなる場合もしてはいけない、しないを徹底している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族や行政の承諾が得られ閉塞感のないように配慮しているが、玄関は施錠している。トラブルの予防に努めてはいるが、他室ドアを開閉することから不快感を感じている入居者様がいる。	○	体制を強化し玄関の施錠はなくしたい。物盗られ妄想のある方の不安を軽減するため、自室を留守にするという意味で、外側からの本人施錠に関係者の理解が得られるかを今後も検討していきたい。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日常全般のさりげない見守りを心掛けている。安否確認表を用いて昼夜を通してお一人ひとりの安否、安全など所在確認を行っている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品や刃物などは所定の場所に保管しているが、お一人ひとりが必要に応じて気軽且つ安全に使用できるように助言を加えた見守りを行っている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	お一人ひとりの身体状況や理解、判断力に合わせた対応を心掛けている。内部研修や職員会議、ユニットカンファレンス、日々の申し送り等で情報を共有し状態に合わせた対応で事故防止に細心の注意を払っている。		ヒヤリハット事例を都度記録し確認し合うことで、状態に合わせた対応や再発防止に努めている。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時には速やかな対応ができるように、手順や留意点を確認できるようにしている。消防署主催の救命救急など研修には積極的に参加するようにしている。技術面での訓練は定期的に行っているとはいえない。	○	定期的な訓練で技術や知識の向上を図り、全職員が速やかな対応ができるように、今後も外部、内部研修を行いたい。速やかに基本情報の提供ができるように、緊急メモを作成し急変時に備えたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の研修には積極的に参加し、昼夜を想定した避難訓練を定期的に行っている。近隣住民にも協力を仰げる体制にあり、事業所内の連絡網や役割分担は明示している。夜間の体制強化を予定している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	お一人ひとりのリスクについてはご家族の理解や了解が得られている。 重度者への対応や取り決めが、軽度者の自立の妨げや抑圧にならないように、今後もきめ細かい対応に努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル測定や体調チェックを行い、早期に対応できるようにそれぞれに気付きは日誌やノートに記載するなど情報の共有に努めている。 医師や訪問介護に相談するなど、具体的な対応法は申し送りで全職員に口頭で伝えている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人ひとりの能力に合わせた援助を心掛け、服用内容に変更があった場合は予測される症状など周知した上で経過観察に努めている。 変更の経過や目的、用量などは確認し易いように、服薬一覧表を用いている。		名前、日時、個数など復唱し、入居者様自身にも確認を促している。 誤薬を予防するため、複数の職員がチェックする体制にあり、セットミスなどはヒヤリハットで相互に注意を促している。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防の軽運動を励行し、食物繊維や乳製品を取り入れるなどお一人ひとりに合った自然排便が可能になるように支援している。 下剤を用いる場合は、排泄チェック表を活用して都度調整を行い不快の軽減を心掛けている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	認知能力や生活習慣も加味して、お一人ひとりに合った援助や介助を行い口腔衛生に努めている。 痛みや不快症状がある場合は早期に受診して、専門医と最善の方法を検討している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量はさりげなくチェックし、不足の場合は補食、補給ができるように援助している。 摂取制限が過度のストレスにならないように、医師や栄養士に相談した上で楽しみや満足が得られるように工夫している。		食欲不振や過食、水分を控える傾向にある入居者様には、医師や訪問看護の看護師からの助言を加えるなど食生活管理を支援している。 嗜好や性格、身体状況に応じた援助を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗い、うがいを励行するなど衛生管理をおこなっており、入居者様、職員共インフルエンザ予防接種を受けている。 感染症マニュアルに従った対応を行っている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器洗浄機や乾燥機は使用していないが、調理用具は都度消毒を行うなど衛生管理を行っている。 入居者様が収穫した山菜やご家族、近隣住民からの頂き物も、安全な保管や調理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇や植え込みがあり、エントランスは安全な作りとなっている。 周辺住民には、興味を持って頂けるように、イーゼルを設置して活動内容を伝えると共に、行事を告知して参加を求めるなど身近に親しみを持って頂けるように工夫している。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	遮光カーテンや蛍光灯と白熱灯を使い分けるなど、不快のないように配慮している。 ホールは落ち着いた雰囲気であることを意識しながら、季節が連想される花や飾り付けをしている。共有スペースではトラブル予防のためにお一人ひとりの性格に留意した対応を心掛けている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	寛いだ雰囲気で語らいだり、気の合った同士が趣味活動を楽しめるように、談話室の他にも事務室ソファや廊下のベンチを活用している。 苑庭にも簡易テーブルや椅子の設置が手軽にでき、天気の良い日は軽食や日光浴が楽しめるようにしている。	○	スペースの確保は難しいが、語らいの場として、小規模でも畳の座敷の設置も検討して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	馴染みの物は効果を説明しながらご家族に協力を 仰ぎ、できる限り使用できるように努めている。 事故予防のため設置が困難な場合にあっても、お 一人ひとりの嗜好に合った部屋作りができるよう に都度工夫を加えている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	お一人ひとりに適したきめ細かい対応を心がける と共に、共有スペースは定期的に温度や湿度を チェックするなど空調管理を行っており、各入居 者様に意見を求めながらそれぞれが反映されるよ うに配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	身体機能が活かされるように手すり設置し、障害 物を置かないなど環境を整備している。 状態に応じて転倒リスクを繰り返し検討して、見 守りを強化したり、介助の仕方に工夫を加えてい る。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	自尊心やお一人ひとりのペースに配慮した援助を 心がけ、不快や混乱の軽減に努めている。 感情面に重点を置き、自発的にまた気持ち良く機 能が活かされるように声かけや誘導、援助の仕方 に工夫を加えている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	花壇や植木の手入れ、農作物の育成などが楽しめ るように苑内外を活用している。 いつでも気軽に散歩や日光浴などが楽しめるよう にベンチや簡易チェア、テーブルを用意してい る。		屋外の軽運動などは今後も検討し、健康促進や活 動意欲が向上するように工夫していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・「もう歳だから」「わからない」「できない」と諦めず、『優しさのシャワー』で意欲を引き出して、生き活きとした笑い声が聞こえる中で「やってみるかな」と自発的に感じて頂けるように、関わるすべての人達と協同するように努めています。
- ・認知症の進行や身体機能の低下を予防できるように、混乱要素となる身体、精神的な不快や不安を軽減し、お一人ひとりの個性が活かされ、楽しみや生きがい、憤り甲斐を感じて意欲的な生活をして頂けるように支援しています。
- ・お一人ひとりの性格やそれぞれのペースに合わせた援助を心がけており、『明るく、頭を使って、諦めない』で、可能性やできることをひとつでも多く探し出し実現できるように取り組んでいます。
- ・昨年保護された二匹の猫はもうじき1才になりますが、日々癒し効果を発揮してくれています。